

2016/9/16

臨床試験によつてコラーゲンペプチドに糖尿病の改善作用があることを 第10回日本アミノ酸学会で発表しました

インドの21～50歳までの糖尿病患者〔難消化性デキストリン(陽性コントロール)摂取群21人、コラーゲンペプチド摂取群39人〕を対象に、コントロール対照化無作為割付二重盲検法により、臨床試験を実施しました。標準処置に加えて、各被験材を1日10g、12週間摂取し、経時的な空腹血糖値、HbA1C(糖化の指標)、インスリン抵抗性を評価しました。結果、コラーゲンペプチド摂取群は空腹血糖値やHbA1Cで、コントロールよりも改善効果が大きいことを確認しました。インスリン抵抗性を示すHOMA-IR値についても、コントロールよりも有意に改善されました。これらの結果は、糖尿病患者の血糖値管理において、薬剤との併用によるコラーゲンペプチドの有用性を示唆しています。

第10回日本アミノ酸学会公式サイト <http://aminoacids10th.org/program.html>